

第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

「『NIPPON防災資産』の深化を考える会」の趣旨

本会の開催は、第一線で活躍されている優良認定の関係者の皆様による意見交換・議論を通じて、災害による犠牲者を一人でも減らすための視点・要素、既存の取組やこれからの取組へ反映できる気付き等を洗い出し、整理することを目的としています。

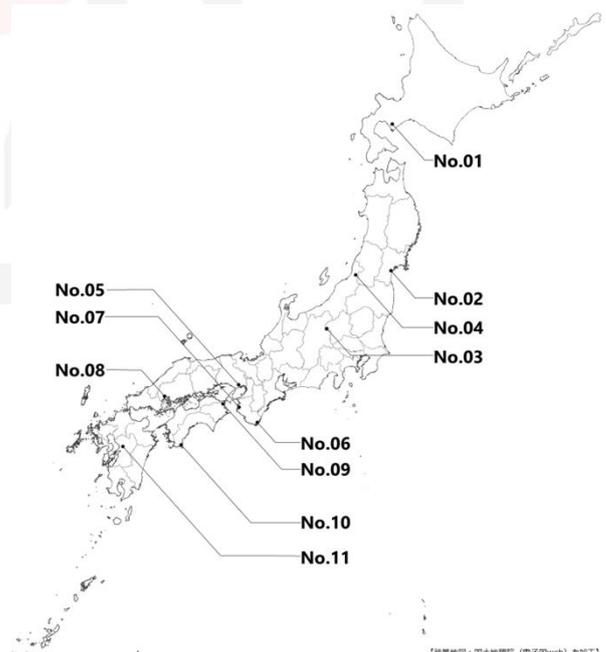
ここで得られた知見は、優良認定の関係者による取組への深化に反映されるだけでなく、広く全国の取組に共有されることで、それぞれの施設の利用者、活動への参加者の皆さんが、災害リスクを自分事化し、災害に備える行動を起こすことにつながっていくことを期待するとともに、それぞれの関係者の知見の共有を通じた相乗効果により、「NIPPON防災資産」の制度の一層の発展・活性化に繋げていくものです。

開催概要

- ◆開催日時：令和7年2月21日(金) 自 15時00分 至 17時15分
- ◆主催者：内閣府・国土交通省
- ◆参加者：優良認定（11件）関係者、NIPPON防災資産選定委員会委員（4名）
内閣府、国土交通省
(Web傍聴者：認定関係者、行政関係者、災害の自分事化協議会委員等、約140名)
- ◆会場：国営東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

第1回「NIPPON防災資産」優良認定（令和6年9月5日公表）

No.	名称
01	洞爺湖有珠火山マイスター
02	3.11伝承ロード
03	孺恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動
04	えちごせきかわ大したもん蛇まつり
05	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター
06	和歌山県土砂災害啓発センター
07	稲むらの火の館
08	広島市豪雨災害伝承館
09	四国防災八十八話マップ
10	黒潮町の防災ツーリズム
11	熊本地震 記憶の廻廊



優良認定位置図

第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

意見交換のテーマ

1 活動の**継続**の視点

▷活動が継続できるように実行していることや課題

2 活動に**巻き込む**視点

▷活動の賛同、協力者を広めるために実行していることや課題

3 **教訓**を伝える視点

▷災害の備えにつながる知識や教訓を伝えるために実行していることや課題

4 **行動**につなげる視点

▷災害に備える動機や行動につなげるために実行していることや課題

5 今後の「NIPPON防災資産」について

▷「NIPPON防災資産」の今後の発展・活性化のために期待すること、望むこと



意見交換で得られたテーマ毎のキーワード

テーマ	ポイント	キーワード
1	活動 ～継続～	<input type="checkbox"/> 語り部・ガイド・地域防災リーダーの育成（高齢化への対応） <input type="checkbox"/> 事業継続（調達，お金をかけない） <input type="checkbox"/> 広域での市町村との連携 <input type="checkbox"/> 認知度・理解の向上 <input type="checkbox"/> こわれる・メンテナンス（大蛇，土の防潮堤）
2	活動 ～巻き込み～	<input type="checkbox"/> 学校教育との連携 <input type="checkbox"/> プロフェッショナル機関との連携（多様な関心を呼ぶ） <input type="checkbox"/> 防災分野以外：他のそれぞれの分野の専門家を利用
3	伝える ～教訓の表現～	<input type="checkbox"/> 学校教育との連携 <input type="checkbox"/> 伝える内容をしっかり書籍化（形式知化） <input type="checkbox"/> メッセージをシンプルにする <input type="checkbox"/> イソップ物語に匹敵するような防災関係の書籍を目指す <input type="checkbox"/> 利用者・学習者にあわせる
4	伝える ～行動につなげる～	<input type="checkbox"/> 防災のノウハウや実践の提供
5	NIPPON防災資産 に望むこと	<input type="checkbox"/> NIPPON防災資産の国際化 <input type="checkbox"/> 配布物の製作・提供

【備考】

赤字；意見交換を通じて、議論を深めるために抽出したテーマ

青文字；災害の自分事化、命を守ることに直結する、引き続き議論が必要なテーマ

第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

意見交換を通じて、議論を深めるために抽出したテーマ等に関するご意見

テーマ	ご意見の要旨
<p data-bbox="113 293 236 389">1</p> <p data-bbox="140 416 225 450">【活動】</p> <p data-bbox="124 463 240 497">～継続～</p>	<p data-bbox="316 275 1182 309"><u>□語り部・ガイド・地域防災リーダーの育成（高齢化への対応）</u></p> <ul data-bbox="323 322 1544 813" style="list-style-type: none"> ・語り部等の活動従事に志願する皆さんを受け入れられる場所があることが大事。 ・施設の増築の際に、ガイドさんの詰め所を設置した。毎月開催している定例会を通じて楽しく、生きがいを感じていただける環境が整備された。 ・語り部側になるべく負担をかけずに活動が続けられるように注力している。シフトの組み方、お金の配分、名刺作り等も含め、生きがいに結びつくところに配慮している。 ・ここ数年は、お仕事が終わられた60歳もしくは65歳というタイミングで、ガイドに応募される方が多い。 ・語り部、ガイド等を講師として派遣する公民館主催の歴史講座を通じた働きかけ。 ・直接的な被災経験がない方等も一緒に巻き込んで活動している。 ・実践主義という制度設計のもと、マイスターの認定を厳しく行うことで、明確な活動ビジョンを持っている方が集まっている。 <p data-bbox="316 826 794 860"><u>□事業継続（調達、お金かけない）</u></p> <ul data-bbox="323 873 1544 1274" style="list-style-type: none"> ・持続的な活動を可能にするために料金設定しており、地域の学校であってもお金をいただくことを原則としているが、予算的に厳しい場合は事務局内で調整する。 ・歴史学、考古学を防災に活かす視点も踏まえ、文化財行政の力を連動させたい。 ・専門が防災ではない、他分野の専門家に関心を持って頂き、先方のアイディアに基づく主体的な関わりの延長で、民間企業からの協賛金の話も出ている。 ・プログラムへ参加したガイドに報酬が入り、ガイドさんに入る報酬は、町からは通常配布されない備蓄品等の購入費用にも充てている。 ・国際ボランティア学生協会（IVUSA）によるボランティア活動が、祭りを盛り上げ、村民にも若い力を与えてくれており、祭りの継続に寄与している。 <p data-bbox="316 1288 619 1321"><u>□認知度・理解の向上</u></p> <ul data-bbox="323 1335 1544 1458" style="list-style-type: none"> ・セミナー、パネル展、ブース展示の他、教育旅行、研修会等の活動を通じた認知度の向上に努めているが、事業継続するためにはそれだけではならず、その先にある、理解→共感→賛同→支援につながる道筋が必要となる。 <p data-bbox="316 1471 683 1505"><u>□こわれる・メンテナンス</u></p> <ul data-bbox="323 1518 1544 1594" style="list-style-type: none"> ・災害伝承の意味を込めた大蛇を5～6年に1回作り直すことが、伝承を途絶えさせずに多くの人を活動へ巻き込むポイントになっている。

第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

意見交換を通じて、議論を深めるために抽出したテーマ等に関するご意見

テーマ	ご意見の要旨
<p data-bbox="108 277 231 367">2</p> <p data-bbox="140 398 231 427">【活動】</p> <p data-bbox="92 443 272 472">～巻き込み～</p>	<p data-bbox="316 264 587 293">□<u>学校教育との連携</u></p> <p data-bbox="331 309 751 338">【学校・教育委員会の巻き込み】</p> <ul data-bbox="331 353 1533 943" style="list-style-type: none"> ・学校による教育旅行の誘致に向け、旅行会社、学校の教育旅行担当者向けの商談会等に参加し、施設の役割、紹介等を行っている。 ・市内の学校の教員等が集まる会合で災害伝承施設の概要を紹介し、校外学習の活用を呼びかけている。 ・自治体の教育委員会、防災部局を含めた継続的な体制を構築している。 ・地元教育委員会に対する働きかけにより、小学校三、四年用の社会科の副読本に災害伝承施設について掲載されたことから、小学校からの来館者が増えた。 ・地元の有名中学校の入試予想問題に、災害伝承の対象としている自然災害が取り上げられ、多くの教育関係者に周知された。 ・県主催の教諭への研修を災害伝承施設で開催するように準備している。 ・世界津波の日（11月5日）は、曜日に関係なく、町内の全学校・子ども園で登校、登園し、避難訓練、气象台の方に防災の話聞くなど、防災でその日を過ごす取組も続けている。 ・語り部、ガイド等の活動に対する連携について相談している。 <p data-bbox="331 958 571 987">【先生の巻き込み】</p> <ul data-bbox="331 1003 1533 1368" style="list-style-type: none"> ・年度初めに赴任してきた先生方を対象に防災の話をする機会を設け、繰り返し実施することにより、赴任地周辺の自治体だけでなく、新たな転勤先でも口コミが広がり、結果として、周辺地域の全校で活動するようになった。 ・防災学習は二学期に行う事が多いことから、通常の展示や説明内容を小学生向けに分かり易くした特別展を夏休みに実施した。その際の資料を基に、来館された先生自らが防災学習をされた事例を確認している。 ・ターゲット毎にカリキュラムツールを用意してあげると、教諭側も受け入れやすい。 ・来年度の防災教育を検討されているタイミングで働きかける。年度明けでは遅い。 ・中長期的には、先生方が主体となった防災教育の実施を目標としている。 <p data-bbox="331 1384 571 1413">【生徒の巻き込み】</p> <ul data-bbox="331 1429 1533 1720" style="list-style-type: none"> ・祭りへの参加に先立ち、事前学習の時間を設け、なぜこの祭りをやっているのか、なぜ8月28日にこだわっているのか等、祭りの背景、意義を理解した上で当日参加させる。 ・毎年開催する「津浪祭」に地元の小学6年生、中学3年生の参列をお願いしている。また、この式典に先立ち、子供たちは、浜口梧陵が私財を投じて作った堤防の上で一握りの土を置き、自らがこの堤防を守ることで、防災意識が向上することが期待される。 ・「語り部ジュニア」として地元の小学校高学年に対して夏休みに集中講義を行った後、12～1月頃に発表会を開催し、保護者も含めて参加いただいている。 <p data-bbox="316 1736 799 1765">□<u>プロフェッショナル機関との連携</u></p> <ul data-bbox="331 1780 1533 1973" style="list-style-type: none"> ・自らは開発・製作できない災害グラフィックの作成にあたり、地元の大学にご協力いただき、より効果的な防災研修を受けていただける環境を整備することができた。 ・国公立大の防災関係の先生方と各県の教育委員会、マスコミ、コミュニティの小さな放送局、NHK、国土交通省地方整備局、国土地理院等で構成される緩やかな連携の下、教育委員会の方々には無理をさせない範囲で連携を強化している。 <p data-bbox="316 1989 432 2018">□<u>その他</u></p> <ul data-bbox="331 2033 1533 2145" style="list-style-type: none"> ・県だけで取り組むのではなく関係市町村との連携会議を組織して地区との情報共有を図っている。 ・地域の方々が集う場所になるよう、施設主体で夏祭りや秋祭り等を開催している。

第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

意見交換を通じて、議論を深めるために抽出したテーマ等に関するご意見

テーマ	ご意見の要旨
<p>3</p> <p>【伝える】 ～教訓の表現～</p>	<p>□<u>学校教育との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の危険性、怖さのみを植え付けるのではなく、自分の住んでいる地域の良さについても合わせて教えることで、地域の繋がり、ふるさとへの愛着と誇りを持ってもらえるように心がける。 ・「自然の恐れ（災害リスク・災い等のマイナス面）」と「自然の恵み」（プラス面）の両方に触れる内容にする。 ・座学だけでなく、実験・現地見学等を通じた体験的な学びができるように配慮する。 ・学校、PTAからの提案により、基本コンテンツであるマップのイラストを用いた紙芝居、ゲームを作成し、多様な手法によって教訓を表現している。 <p>□<u>伝える内容をしっかり書籍化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教訓、伝えたい内容は明確かつシンプル、分かり易いものにする。また、文字化（書籍、冊子化してまとめる）する。 ・昨年3月に「防災100年絵本」の発刊に着手した。幼い時から防災・減災に触れさせ、それを読み聞かせる大人にも防災・減災を再認識する機会を提供することができる。 <p>□<u>利用者・学習者にあわせる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にカスタマイズした教材を作成している。地域ごとに災害の履歴、自然災害の特徴などが異なるため、学校近くの地形、災害写真などを活用して、災害が自分の住んでいる身の回りでも起こるものだという意識を持ってもらうように工夫する。 ・児童・生徒の発達段階に応じて説明内容、方法を適切に選定する。例えば、低学年の児童は災害、避難という言葉自体が理解できない場合もあることから、その意味から理解できるように配慮する。 ・過去の災害も自分事として受け止めてもらえるように、被災経験のある語り部による紙芝居を用いた説明、過去の教訓を現在の視点に置き換えた説明等に配慮する。 <p>□<u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダーによる災害からの復興の視点も含めた内容を伝え、地域の歴史を振り返るきっかけを提供する。

【活動】～巻き込み～の事例 〈稲むらの火の館〉



「語り部ジュニア」による発表会

【伝える】～教訓の表現～の事例 〈四国防災八十八話マップ〉



マップの内容をカルタや紙芝居として作成



第1回「NIPPON防災資産」の深化を考える会 開催結果概要

意見交換を通じて、議論を深めるために抽出したテーマ等に関するご意見

テーマ	意見交換で得られたご意見
<div data-bbox="108 286 231 385" style="background-color: #ccc; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 24px;">4</div> <p data-bbox="86 405 280 521">【伝える】 ～行動に つなげる～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安政の南海地震津波の被害の様子を詳しく書いた古文書には、「津波はをさかのぼるのが早いから、川を渡って避難をするな」、「津波という話を聞いたら、何も考えずにお宮さんに逃げろ」等の教訓的なことがいくつか書かれている。これらを皆さんにお伝えをすることが、津波防災を伝えていくという活動になると思う。 ・ 2012年の内閣府からの公表された想定津波高34.4mを聞いた住民からは諦めにも似た声上がり、高齢の方が「大津波 来たらば共に死んでやる 今日息が言う 足萎え吾に」と言う俳句を詠まれていた。その後、津波避難タワーの整備、戸別津波避難カルテ等の取組を行い、2年後に同じ方が「この命 落としはせぬと足萎の 我は行きたり 避難訓練」という歌を詠まれており、意識が変わり、逃げれば助かるという内容が書かれています。防災の取組は、このような住民の方1人1人の意識変化が重要と捉え、津波をただ恐れるだけではなく、「正しく知って、正しく恐れる（付き合いしていく）」という方針で、取組み方を展開している。 ・ 防災ツーリズムでは、良い面である海の恵みに係る体験と「防災かかりがまし」の皆さんからのお話を聞いたり、意見交換をすることを合わせたプログラムを提供し、具体的な防災の行動につなげてもらえるようなプログラムを提供していきたいという思いで展開をしている。「かかりがましい」とは地元の方言で、「必要以上におせっかい焼き」という意味で、防災には「かかりがましい」繋がりが必要と考え、地域住民の方々が助け合う防災のことを「かかりがましい防災」と表現し、地域住民の有志グループが「防災かかりがま士の会」を立ち上げ、取り組んでいる。 ・ 町の職員は通常業務に加え、防災地域担当業務を行っている。まず、職員は担当する地域に入り、想定津波高等の中身について住民に説明し、正しく知るという第1ステップから始めた。また、これまでのハード面に加えて、ソフト面の取組として、戸別津波避難カルテというものを住民1人1人の情報を基に作った。これは、防災部門の職員がそれぞれの家を訪問し、住民、家庭の状態等を一つ一つカルテとして起こして、その内容を踏まえて、その地区での対策、取組に繋げてきた。その戸別津波カルテの結果を地区防災計画、津波避難計画、避難所運営マニュアルに反映させた。このような事前の計画、情報の周知の部分の取組があり、それまでは諦めていた住民が適切な行動さえ取れば、自分らも助かるのだという意識に変わってきた。 ・ 災害時の行動に結び付けるためには、教訓をできる限り分かり易く伝え、理解してもらうことが必要。理解してもらうことは、次に起こりうる事象が分ることであり、先を読む力をつけることである。
<div data-bbox="108 1619 231 1718" style="background-color: #ccc; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 24px;">5</div> <p data-bbox="68 1738 296 1809">NIPPON防災資産 に望むこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来館者に外国人も多いことから、「NIPPON防災資産」紹介冊子の英語版、韓国語版等が欲しい。訳し方もいろいろあると思うので、統一したものが欲しい。 ・ 来館者に配布できる「NIPPON防災資産」を紹介するパンフレットを作って欲しい。 ・ 「日本災害伝承ミュージアム」の各館の連携などによっても、災害伝承、減災活動を繋げていくべきと考えており、「NIPPON防災資産」に関連して、多くの広報施設があるとことを認識してもらいたい。 ・ 来年度、新潟県で開催される「ぼうさいこくたい」に出展させていただき、多くの防災関係者が集まる中で情報発信をしたい。